

抗がん薬治療中の患者さん、ご家族(介助者)の方へ

抗がん薬は肝臓や腎臓で分解され、安全な成分として尿や便に混ざって体外に排出されますが、一部の抗がん薬やその代謝物にはまだ薬の影響が残っていることがあります。そのため、患者さんご本人や周りの方々が抗がん薬に触れることがないように、抗がん薬点滴、内服後**約 2 日間**は次のような点にご注意ください。

生活上の注意点

【排泄物について】

トイレ使用後はフタがある場合はフタを閉めて流し、手洗いを徹底しましょう。飛び散るのを防ぐため、男性は座って用をたしましょう。

使用済みのオムツや尿パッドなどは密封して捨てましょう。

吐物を取り扱う際は使い捨ての手袋を使用し、手袋を外した後は手をよく洗いましょう。



【洗濯物について】

通常は特別な取り扱いの必要はありません。尿や便、大量の汗などが付着してしまった場合は、他のものと分けて予洗いし、そのあとに患者さんのものだけを洗いましょう。



【入浴について】

入浴時は浴槽を別にする必要はありません。気になる場合はシャワーで洗い流してから浴槽に入る、ご家族の中で最後に入浴するとよいでしょう。

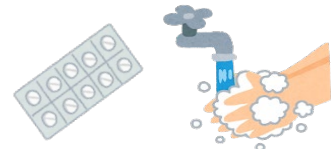
【その他】

乳幼児を抱く、お子さんと触れ合う場合なども特別な対応は必要ありません。妊娠中や授乳中の方への影響を心配される方もありますが、別々に生活するほどの距離をとる必要はありません。

内服薬の取り扱い

薬が飲みにくくても、抗がん薬の錠剤を砕く、カプセルの中身を取り出すことは避けてください。患者さんの服用を介助する際は、ビニール手袋などを着用し、素手で触れないでください。万一触れてしまった場合は、すぐに石鹼を用いて流水でよく洗ってください。

内服後の殻はビニール袋などに入れて、通常の燃えるゴミで廃棄してください。また、他の人が誤って内服することが絶対にならないように管理をお願いします。



持続型注入ポンプの取り扱い

ご自宅で点滴が終了したら、使い捨てのビニール手袋を着用して、指示に従った方法で取り外してください。外したポンプはビニール袋に包み、医療用廃棄物専用の袋に入れて、医療機関に持参してください。抗がん薬が皮膚に付着した場合は、すぐに水と石鹼で洗い流してください。

その他、不明な点や不安がある場合は、遠慮なく医療スタッフにご相談ください。